

交通の拠点を超え、新たな体験価値とつながりを提供するプラットフォームへ

Beyond Stations 新宿駅南口コンコース・秋葉原



誘導がなくとも感覚的に動線を認識できる空間を形成した。吊りサインを減らし、天井や壁面はグレー色に統一



番線記名標・LED発車標が集約され、通路の見通しが向上。ゲート化したことでホーム下り口が明確になり、必要な情報を把握しやすくなった

柱巻きLEDメディア、大型のキューブ型LEDメディア、横長に連続した天井面LEDメディアによって、イマーシブなメディア空間が誕生

「Beyond Stations 構想」の推進に向けて

JR東日本グループが掲げる「Beyond Stations 構想」は、駅を「交通の拠点」を超えて、ヒト・モノ・コトがつながる「暮らしのプラットフォーム」へ進化させようとする取り組みである。大型サイネージを活用した駅空間の整備により「イマーシブなメディア空間」を創造し、駅そのものが情報発信と体験の場に変貌する。この構想の下で、モデル駅として整備された新宿駅と秋葉原駅を紹介する。

「引き算のサイン計画」で視認性を向上

世界最多の乗降客数を誇る新宿駅の南口コンコースは、案内サイン、店舗、広告などが無秩序にあふれており、その状態で新

しい広告メディア(サイネージ)を設置しても、埋没して目立たず、駅サインの視認性もさらに低下する恐れがあった。

そこで提案したのが「引き算のサイン計画」だ。吊りサイン(誘導サイン)が見通しを阻み、かえって動線の分かりづらさを生んでいたため、必要最低限に抑えて主動線の見通しを確保した。加えて、路線色による大きな色彩面を設けてゲート化しホーム階段の視認性を向上させた。これにより、誘導サインに頼らずとも、利用者が目的地を直感的に把握できることを目指した。

また、動線の妨げとなる視覚的な要素を抑えるため、天井や壁部分を「影」に見立てて、塗装やシートなどでグレー色を施した。店舗も顔出し部分を限定し、それ以外はグ

レー色を施すというファサードレギュレーションに準じてもらったが、主動線上の駅サインやパナー広告の撤去により、リニューアル前よりも店舗の視認性が高まる効果が得られた。

DXツールを活用した合意形成

今回のリニューアルでは、3Dスキャナで取得した点群データにBIMモデルを重ね合わせ、シークエンスを確認できる動画の作成を行った。その動画によって図面だけでは分からない、広告メディアと駅サイン、店舗の視認性などを確認できたことで、従来の考え方を大きく変えるサイン計画であっても、関係者の理解や合意形成をスムーズに取ることができた。



3Dスキャナで取得した既存の駅の点群データから、撤去するサインや設備などを削除し、そこに3Dモデルを配置したもの。これを動画にすることで、さまざまな位置から、あるいは歩きながらの見え方を関係者に示すことができた

PROJECTS Beyond Stations 新宿駅南口コンコース開発

当社HPでも同物件のご紹介をしております。ぜひ、ご覧ください。



Beyond Stations 新宿駅南口コンコース

所在地	東京都新宿区
用途	駅舎
発注者	東日本旅客鉄道
施工	東鉄工業
敷地面積	25,246.93㎡
建築面積	7,775.26㎡
延べ面積	26,249.08㎡
改修面積	約3,400㎡
階数	地上7階、地下2階
構造	S造
開業	2024年7月
〈担当〉	
統括	青木豊実、西野絵里子
建築担当	奥野智士*、古賀夏美
構造	本山次郎
設備	瀧本深雪、後藤啓太
サイン	六百田真、堀切弘蔵
C/G	青城伸太郎、志関雅詞 (*は元社員)



幅約30mの大型湾曲サイネージと商業空間を一体化した「AKIBA“CAP”」。もともとは駅社員の休養室だった場所



右側の張り出しているところが増床部分



縦約1.8m×横約1mの等身大サイネージが、8本の柱に合計32面配置された「AKIBA WARP」



黄色いライン照明やオレンジのタイルが、空間に広がりをもたらす



アルミ鋳物タイルによる工業的で力強いファサードが印象的



オールキャッシュレス化を実現

「AKIBAらしい基地創造」に向けて、商業や広告を環境と融合

「Beyond Stations 構想」を象徴的に体現するモデル駅として開発された秋葉原駅では、「AKIBA“CAP”」「AKIBA WARP」「エキュート秋葉原」の3エリアを、物理的・視覚的につなげる設計を計画した。

第1期、第2期に分けての工事

まず実施したのは、中央改札正面の「AKIBA“CAP”」の工事だ。上部に設置する大型サイネージの荷重を支える構造柱の位置を調整することで空間を生み出し、広告の直下で商業施設を一体活用できるエリアとなった。もともと駅社員の休養室で奥行きがあまりない場所だったため、流動調査や現地での体感確認を行い、駅の機能に

影響を及ぼさない限界まで一部を湾曲させる形で増床を行いボリュームを出したこともポイントといえる。

第2期工事で生まれたのは、「AKIBA WARP」と「エキュート秋葉原」である。「AKIBA WARP」が位置する場所は、上部に複数の高架橋が通過する、天井の低いトンネル状という開発には不向きな環境だったが、連続する柱型サイネージがイメージなメディア空間をつくりあげた。環境を逆手に取った設計で、利用者がその先のエリアに期待を持って引き込まれるような効果を実現している。

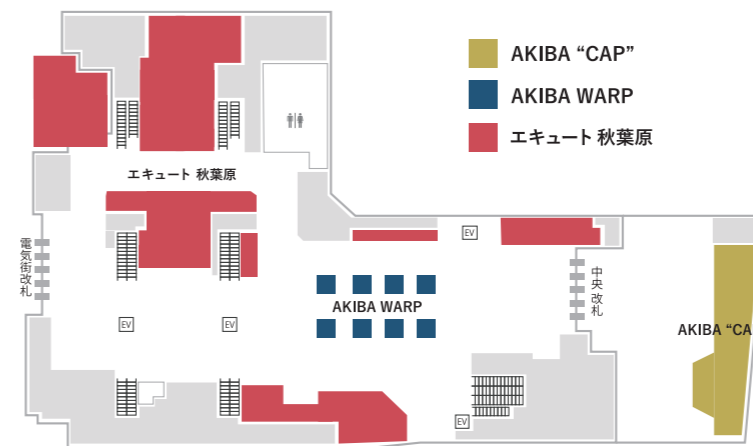
その先には、オールキャッシュレス化などの導入により、次世代型商業施設として開発を進めた「エキュート秋葉原」が姿を現す。アルミを鋳造した壁面パネルで工業的

かつ未来的な力強さを表現するとともに、天井の黄色いライン照明や床に配した印象的なオレンジ色などにより、商業施設が駅へ越境してにじみ出すような体感が得られ、「AKIBAらしさ」と駅との一体的なつながりが感じられる。

グループの連携により、Beyondを加速

こうして新宿駅、秋葉原駅では、新しい広告メディア・駅・店舗が融合した、利用者にとっても分かりやすく、ワクワク感が生まれる空間創出が実現した。これまで個別に行っていた取り組みを、関係者が一体となって行うことで、JR東日本グループの発展につながるBeyondのカタチが誕生した。

秋葉原駅 平面図



PROJECTS Beyond Stations 秋葉原

当社HPでも同物件のご紹介をしております。ぜひ、ご覧ください。



Beyond Stations 秋葉原

所在地	東京都千代田区
用途	駅舎・商業施設
発注者	東日本旅客鉄道、JR東日本クロスステーション デベロップメントカンパニー、ジェイアール東日本企画
施工	東鉄工業、日本電設工業
敷地面積	11,924.97㎡
建築面積	5,364.35㎡
延べ面積	5,212.11㎡
改修面積	約2,000㎡
階数	地上2階
構造	S造+土木高架橋
開業	2025年4月
〈担当〉	
統括	藤川浩一、栗原広樹
建築担当	安井太志、島田真希、前田健吾
構造	小澤知也、大場航、松本尚之、上野彩菜
設備	松山光利、平田浩二、土城峻
電気	鈴木秀典、鈴木紀晃
積算	千葉克彦、上菌智訓
サイン	田口光
内装デザイン	乃村工藝社、モーメント
協力事務所	ワタリ設計、テイクエンジニアリングアソシエイツ